

運動・スポーツに関する意識・活動状況調査結果（要点）

1 計画指標の達成状況について

注：22年度（10年前）及び27年度（5年前）調査での回答方法は、郵送のみでインターネットでは行っていない。

- ・ 現計画の3つの数値目標は、コロナ前（令和2年2月までの1年間）においても、いずれも達成できなかった。また、コロナ後（2年3月以降）は、コロナ前からいずれも下落。
- ・ するスポーツは、コロナ前63.4%となり、5年前（53.2%）や全国平均（令和2年59.9%）を上回った。
- ・ みるスポーツは、コロナ前27.8%となり、5年前（38.2%）より減少。73.4%が今後もスポーツ観戦・応援を希望している。そのうち、現地で直接観戦・応援したい方が30.3%、テレビ・インターネットで観戦したい方が54.2%。
- ・ 支えるスポーツは、コロナ前7.7%となり、5年前（4.4%）より上昇。また、27.1%が今後してみたいと回答。

<p>【するスポーツ】 週1日以上運動やスポーツをする市民の割合 目標値：65%以上（R2年度）</p>	48.4% (H22年度)	▶	53.2% (H27年度)	▶	コロナ前 63.4% コロナ後 58.1% (R2年度)
<p>【みるスポーツ】 市内で直接スポーツを観戦した市民の割合 目標値：50%以上（R2年度）</p>	24.4% (H22年度)	▶	38.2% (H27年度)	▶	コロナ前 27.8% コロナ後 7.5% (R2年度)
<p>【支えるスポーツ】 スポーツ活動にボランティアとして参加した市民の割合 目標値：10%以上（R2年度）</p>	3.1% (H22年度)	▶	4.4% (H27年度)	▶	コロナ前 7.7% コロナ後 2.3% (R2年度)

2 運動・スポーツの実施状況

- ・ 運動・スポーツの実施頻度は「週3日以上」が最も多い（5年前25.6%→コロナ前36.4%、コロナ後30.6%）。
- ・ 日常的な運動・スポーツの習慣化が進む一方で、運動・スポーツが月1日に満たない人も増加（5年前20.5%→コロナ前24.4%、コロナ後26.6%）。
- ・ 「ウォーキング」「日常生活に組み入れた運動」「体操」「室内運動」など手軽な運動の実施率が高い。
- ・ 運動・スポーツをしなかった理由は、仕事や家事・育児の忙しさ、病気など健康上の理由などが多い。
- ・ 70.3%が今後、運動・スポーツをしてみたいと回答。今後行ってみたい運動・スポーツは、現在行っている種目と同様に、手軽な種目（ウォーキング、日常生活に組み入れた運動、室内運動等）が上位。

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大による変化

- 運動の実施率や実施頻度：低下 / 平均実施時間：短縮
- 「ウォーキング」「日常生活に組み入れた運動」など手軽な運動・スポーツ：増加
- 「運動会・体育祭」をはじめ，地域や仲間との交流できる運動・スポーツ：減少
- 仲間との交流よりも運動不足の解消を目的とする人：増加
- 運動会・体育会（地域・学校・職場等）は，コロナ後 1.8%（コロナ前 13.4%）

3 運動・スポーツに関する情報

- ・ 生活の中で手軽にできる運動の情報やスポーツ施設に関する情報が求められている。
- ・ 運動・スポーツに関する情報は、「行政の刊行物」や「知人・友人・家族」「ホームページ」などから入手。

4 スポーツの観戦・応援の状況

- ・ 現地で直接スポーツを観戦した人の中での観戦回数は、「年1～3日」が最も多い。
- ・ 現地で直接スポーツ観戦・応援しなかった主な理由として、「テレビやインターネット等での観戦・応援で満足しているから」が最も多かった（コロナ前 46.5%）。
- ・ 73.4%が今後もスポーツ観戦・応援を希望するも，現地で直接観戦・応援希望者は 30.3%。
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大による変化

- 観戦・応援頻度はコロナ前の 1/3 以下（7.5%）
- 新型コロナウイルスの感染リスクや，試合や大会の中止・無観客の理由が増加

5 スポーツに関するボランティア活動

- ・ 町内・学区，地域の運動会やスポーツイベントの運営・手伝いなど「地域のイベント」が中心。
- ・ ボランティア活動をしなかった主な理由は，仕事や家事・育児の忙しさ。コロナ前は，ボランティアの内容や応募に関する情報不足を理由にあげる人も多い。
- ・ 27.1%が今後スポーツに関するボランティアをしてみたいと回答。してみたい活動は，町内・学区，地域の運動会やスポーツイベントの運営・手伝いなど「地域のイベント」が多い。
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大による変化

- コロナ前にボランティア活動を行っていた人でも，コロナ後は 36.5%に減少。
- スポーツの指導・審判，団体・クラブの運営や世話，スポーツ施設の管理の手伝いなど「日常的な活動」が中心に。
- ボランティア活動をしなかった理由として，コロナ後は新型コロナウイルスの感染リスクをあげる人が 17.9%

6 スポーツ施策などについて

- ・ 市民の運動・スポーツの活動に期待する効果として，「健康で長生きできる社会の実現」「高齢者の生きがいづくり」「仲間づくり，友人との交流の促進」が高かった。
- ・ 今後更に市民の運動・スポーツの活動を活発なものにしていくために大切なことは，「身近なスポーツ施設や設備の充実」「スポーツ関連情報の提供」「年齢にあった運動・スポーツの開発・普及」が高かった。